



農協だより

Vol. 28

URL: <http://www.ja-aki.jp>

平成 20 年 12 月

米の集荷状況

平成 20 年稲作作柄概況は田植後の日照不足、出穂前後の水不足など大変なこともありましたが、病害虫被害はほとんど無く台風の影響も受けませんでした。

収量は(作況指数県南部 104)豊作でした。しかし、高温の影響が充実度不足の米が多く、残念ながら地域間に大きな差があり平均 1 等米比率は低い水準となりました。



平成 20 年 11 月 14 日現在

袋 / 30 kg

銘柄	1 等	2 等	3 等	規格外	合計
コシヒカリ	489	767	25	7	1,288
ヒノヒカリ	1,724	1,921	167		3,812
こだわり米ヒノヒカリ	1,041	721			1,762
あきろまん	299	235			534
その他	65	15			80
ココノエモチ			13	7	20
合計	3,618	3,659	205	14	7,496



今年度より取り組んでおります栽培履歴回収にご協力頂きまして、大変ありがとうございました。もう 1 回集荷がありますが、現在のところでは 100% の回収率となっております。回収させて頂きました履歴を分析検討し、今後の営農指導に役立たせたいと思っております。来年度も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



* 安芸区民まつり *

11 月 9 日に安芸区役所で区民まつりが行われました。当日は阿戸町農事研究会、瀬野川農事研究会が野菜や花を販売し、地元農産物の PR を行いました。当日あいにくの天候でしたが多くのお客さんが購入されておられました。



緊急集会へ役員参加

10 月 28 日に広島国際会議場にて「原油・生産資材高騰対策広島県農林漁業者緊急集会」が開かれました。始めに JA 広島中央会の村上光雄会長は「世界の食料情勢はさまがわりし、車がとうもろこしを食べる時代になり食べ物への不安も大きな問題になっている。農業は、経営努力ではカバーできない現状を見てもらいたい。国策として早急に対処して欲しい。」と挨拶がありました。また、結集した農業生産者 400 名により「原油・生産資材高騰に関する緊急決議(我々の努力のみでは到底解決できない現状の危機的状況をふまえ、国の責任として農家経営の安定を確保する思い切った対策を早急に措置すべきである。)」を決議して緊急集会後、平和公園より本通りまでパレードを行い消費者に地産地消の必要性や現状を大声を上げて訴えました。

活菜倶楽部 視察研修

生産・販売技術の向上を目的として毎年視察研修が行われています。今回、10 月 29 日(水)に総員 77 名で活菜倶楽部会員に加え JA 安芸経済委員、専務、経済部長、地域対策部長、営農指導センター長も同行いたしました。視察地は、岡山県の A コープくまやまの直売場、直売場に出荷している小竹農園と福山市の、農業資材販売店「農家の店すくすく福山店」を視察して担当者及び農家の方よりお話を聞きました。今回の視察先も元気に頑張っておられる姿を見てみんな元気をもらって帰られたと思います。活菜倶楽部の売場は地元に着して新鮮で安心できる食材として愛されています。これからも仲間を増やし引き続き頑張っていきたいと思います。



阿戸町農事研究会 視察研修

11 月 5 日に阿戸町農事研究会で会員 22 名、広島市農林振興センター職員 1 名及び JA 安芸職員 1 名で岡山県の「道の駅 みやま公園」に視察に行きました。県内でも最大級の施設で農産物のみならず海産物の販売もありました。当日は天候も良く地元のお客さんや観光客で大変にぎわっていました。



ひろしまフードフェスティバル2008

百二十万石の広島秋祭り。広島県内 23 市町が大集合して広島の旬を丸ごと味わえる「ひろしまフードフェスティバル」が 10 月 25、26 日に行われ、75 万人の市民が来場して楽しめました。ひろしまフードフェスティバル実行委員会会員の広島市農業振興協議会へ瀬野川農事研究会、阿戸農事研究会が所属しており活発に活動しています。今回は広島市農業振興協議会花き委員会の活動として中央公園広場にフラワーショップコーナを設置して広島市内及び当管内から出品された切花(菊、千日香、けいとう、バラ、ダリア、綿等)を 1 束 100 円 ~ 250 円で販売致しました。2 日間で約 1,000 束の販売を行い、お客様より安くて新鮮だと喜んでいただきました。



12月 営農メモ

水稲

田んぼの土づくりについて

水稲の土作りは、有機物補給のための堆肥や『ミネラル A』『ケイカル』『ケイテツエース』などのケイ酸質肥料・含鉄肥料『ようりん』『苦土重焼りん』といったリン酸質肥料などがあります。

堆肥は土になじむ期間が必要ですので、秋に施すのが望ましいのですが、それ以外『ミネラル A』や『ようりん』などは、出来秋から春先までの間、いつ散布してもあまり問題がありません。

しかし、春先の作業で忙しい時期や、稲わらなどを早く腐らせる効果などを考えると、出来るだけ土作り肥料は出来秋に散布する方が良いといえます。

土作り肥料の成分と含量

単位%

	アルカリ	ケイ酸	鉄	マンガン	苦土	施肥量(目安)
ケイテツエース	40	12~15	25~30	2~3	2	3年に1回 300~400 kg
ミネラル A	40	18~20	15~20	2~3	2	または、毎年 100~130 kg
ケイカル	40	28			3	200~300 kg/3年、70~100 kg/毎年

ケイ酸 / 組織を硬くし、葉が直立して受光体勢が改善され光合成が高まり、耐倒伏性が增大する。病害虫に対する抵抗性も高くなり、いもち病の害が軽くなる。

鉄 / 酸化鉄となって根を守る。ゴマ葉枯れ病対策。

マンガン / 少量だけ必要。(ゴマ葉枯れ病対策)

苦土 / 食味向上。



野菜

今月はハウレンソウ、トンネルダイコンなどの種まきが行えます。

ハウレンソウはそのままでも播種できますが、ユーラックやべたがけ資材を利用し生育を促進させましょう。また、生育期間が長いので20~30日おきに追肥も行いましょう。

ダイコンの栽培はとう立ちの関係で透明マルチ、べたがけ資材、ユーラックを必ず使用して下さい。品種も低温伸長の良い品種(天宝や桜風)などを使用して下さい。

防寒

はくさい 結球が始まると寒さに弱くなるので、外葉でくるみ霜に当てないようにしましょう。

葉たまねぎ 12月上旬にユーラックでトンネルし生育を促進させます。

トンネル被覆後、気温が上がら始め、湿度が高くなると灰色かび病が発生しやすくなりますので、発生初期にロプラール水和剤で防除しましょう。(1,000倍・収穫14日前まで・2回以内)

葉たまねぎは、たまねぎとは農薬登録が異なるので使用の際は注意して下さい。



芋類の貯蔵 芋類は寒さに弱くそのまま保存していると凍みて芋がだめになります。特にさつまいもは寒さに弱いので12以下にならないようにしましょう。里芋は8以下にならないようにします。

貯蔵直後より裾を開けた状態でビニールを被覆し雨の進入を防ぎましょう。

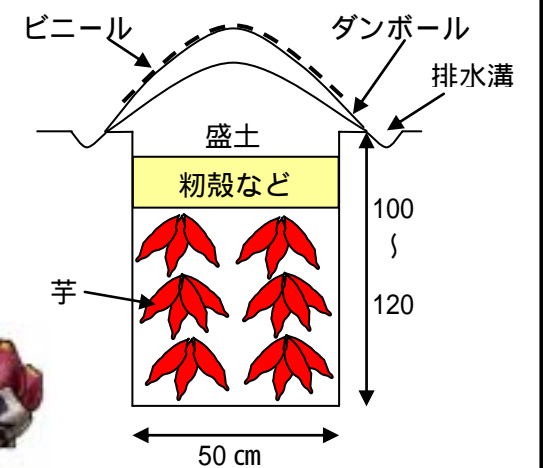
初殻を利用する場合芋との間に不織布を利用します。

12月上旬、下旬に2回に分けて30cm程度盛土を行い、ビニールを除去します。

貯蔵中は13~15を目安に行ってください。



さつまいも保存方法例



果樹

落葉期~出芽前の休眠期に病害虫の防除を行う薬剤は主に、石灰硫黄合剤、または機械油乳剤95(スケルシン乳剤等)を使います。

落葉果樹の縮葉病は、春、葉に発生してからでは処理する薬は無く発芽前の石灰硫黄合剤が有効です。また、カイガラムシ、ダニ類の越冬病害虫の密度を下げるのに効果があります。それぞれの「適用と使用法」を紹介しますので参考にしてください。



機械油乳剤95

適用と使用法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法
かんきつ	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ サビダニ ハダニ類の越冬卵	30~45倍	冬期	-	-
落葉果樹 (なし、りんご、かき、もも)	カイガラムシ サビダニ ハダニ類及びその越冬卵	16~24倍	-	-	-
落葉果樹・桑	カイガラムシ類	12~14倍	-	-	-
もも	アブラムシ類	25倍	発芽前	-	-

石灰硫黄合剤

適用と使用法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法
果樹類	ハダニ類 サビダニ類	20~40倍	冬期	-	-
落葉果樹	カイガラムシ類 ハダニ類 縮葉病、越冬病害虫	7~10倍	発芽前	-	-
なし	黒星病	7倍	-	-	散布
りんご	腐らん病 黒星病	10倍	休眠期	-	
もも	縮葉病、胴枯病、黒星病	7倍	発芽前	-	
うめ	縮葉病	8倍	発芽前	-	
くり	芽枯病	20~40倍	発芽前	-	
みかん	かいよう病	80~200倍	冬期	-	-